

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271600544		
法人名	医療法人社団 昭桜会		
事業所名	グループホーム サクラピア成田		
所在地	千葉県成田市寺台251-20		
自己評価作成日	平成27年12月23日	評価結果市町村受理日	平成28年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katgokensaku.jp/127/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成28年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームサクラピア成田は、「歴史の町・国際都市」成田市寺台地区に位置し、成田山新勝寺や近隣スーパー等の地域資源豊かな地域にあります。「おもてなし、快適さ、楽しさ」を運営理念とし、利用者が快適に楽しく充実した生活が出来る様に、散歩・外出・日常生活等、利用者個々のニーズに添えるべく、日々のケア・生活支援を提供させて頂いております。また、生活保護の方の入居も受け入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の理念実現のため、目標は「利用者が快適に楽しく生活できるように支援する」としている。利用者が楽しめるように多くの機会を設けている。近くの神社の菊まつり、十五夜のお月見、お誕生会など行事を毎月行っているが、今年度は外出で九十九里海岸ヘドライブしている。車椅子で砂浜まで降りて美しい景色を眺めながら久しぶりの外房の自然を満喫している。また施設の住まいの環境を向上させており、職員が床・壁・天井などを磨いて開業当時のように生まれ変わった状態にしている。利用者も訪れた家族も、施設が明るくなり気持ちよくなっている。家族との交流にも力を入れて、新たに「サクラピア通信」を発行している。写真を入れて施設での利用者の様子を載せて施設からの情報や注意点を伝えている。今年度の施設の適切な支援に対しては、家族の高い満足度に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	おもてなし・快適さ・楽しさを事業所理念としているが、全職員が共有しているとは言い難い状況である為、今後ミーティング・申し送り時に周知・共有出来る様に努めていく。	理念を支援の基本として理解するために、毎月の定例ミーティングで職員に説明をしている。職員との面談でも「利用者に寄り添って考えるようにしている」などの話があり周知していることが窺われた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	本年度の地区の祭り際には、神輿が施設敷地内に入ってきて下り、入居者の方も楽しめました。今後も継続して地域との交流を持てるべく、運営推進会議や地区の行事を活用していきたいと考えている。	地域の祭際には、山車と神輿が町を練り歩き施設の広場にも神輿が入り利用者も参加して楽しんでいる。運営推進会議には地域の代表が参加しており交流の機会が増えている。	地域のつきあいでは、今年度は地域の祭などに留まっている。過去には介護相談や自治会との活動に参加して繋がりを持ったこともあるので今後の交流拡大を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において話をさせて頂いているが、地域の方との交流の場においてどう認知症を理解して頂ける様に伝えていくかが今後の課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内にて前回の外部評価の総評を報告させて頂き、構成員の方の意見を日々のサービスに取り込める様に努力している。	運営推進会議は2回開いており、施設の状況や行事に参加した利用者の様子など報告している。外部評価の報告で、改善指摘内容について施設の今後の具体的な対策を説明しており、前向きな姿勢が感じれる。	今年度は地域の代表も参加して開催しており今後の支援の向上に留意していることが確認できた。今後は更に定期的に、計画通り開催することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	成田市小規模多機能グループホーム連絡会や、何かある度に介護保険課・社会福祉課等の担当者と連絡を取り合い、協力関係を築ける様に取り組んでいる。	小規模多機能グループホーム連絡会では行政から介護保険の改正内容の説明を受けている。利用者確保のために、地域の病院とネットワークによる入居の相談ができるように話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する具体的な行為については理解していると思われるが、研修に参加できていない現状がある為、職員が学ぶ機会を構築する事と、身体拘束に関する知識の共有が今後の課題である。	利用者に介護衣を使用することについて職員が話し合い、見守りに注意して使用を止めて拘束を防ぐようにしている。言葉遣いで「じいちゃん、ばあちゃん」などは止めており、拘束に留意していることが見受けられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する研修に参加できていない現状がある為、研修へ参加し学ぶ機会を設ける事、職員に共有させる様に指導する事が今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、権利擁護等の相談等もないが、制度について学ぶ機会を設けてはいないので、制度の理解に努めるべく研修等の機会を構築出来る様に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り御家族様の目線に沿って、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にて状況報告をさせて頂く際に、要望や意見があれば聞かせて頂き、ケアに反映させるべく申し送り時やカンファレンス等にて話し合いを行っている。	家族と面会時に利用者の重度化による対応方法を話し合っており、「ご家族意向確認書」に今後の支援方法を確認している。家族の要望はカンファレンスで話し合い支援の充実に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や毎月のカンファレンス開催時に、各職員の意見を聞く機会を設けている。	カンファレンスで職員から、「歯磨きに注意するため洗口液を使う」「入浴後に保湿剤を使う」などの意見があり改善をしている。介護経験の豊富な職員の意見を活かして適切な対応が見られる。	ミーティングで適切な支援方法の話し合いや、認知症介護の外部研修の内容を発表している。今後職員の更なる技術の向上を目指して計画的に研修を行うよう期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の面接を近日中に行い、対応すべく検討中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務上、研修への参加を促す状況下になかなかならず、研修への参加を促すことが出来ていないのが現状である。今後の課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催される成田市小規模多機能グループホーム連絡会において、ネットワーク構築、勉強会、相互訪問等の活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを通じて、出来る限りの不安の除去に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階だけではなく、何かあれば御家族と連絡を取り合いながら関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コミュニケーションを密にとり、通院や自宅訪問等、必要な支援に対しては柔軟に対応する様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「おもてなし、快適さ、楽しさ」の根本理念の下、本人の残存能力を確認しながら関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が自由に御面会できる環境作りを構築している。外出を希望される御家族には外出支援をし、共に本人を支えていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方のご訪問等、関係が途切れない様に、本人の情報を元に支援している。	利用者の以前の友達が仲間と訪れて話し合っている。また自宅に帰る日を決めて戻れるように配慮している。利用者のこれまでの関係を大切にして継続するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で、利用者同士の関係を個々の性格を把握した上で、利用者同士が関わり、支え合えるような支援を提供できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入居に際しても、相談・支援する様に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメント・モニタリングを行い、カンファレンスにて検討し、プランに反映、ケアにつなげるように努めている。	フェイスシートで食事・排泄など7項目を把握し、家族の健康についてなどの要望を重視している。カンファレンスで利用者が「あんパンを買いに行きたい」などの要望を確認して適切に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、御家族・御本人様に生活歴・サービス利用経過等の状況を聞き、把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に一日の状況を記載しており、日々の状況を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族の意向については、担当者会議において話し合い、介護計画に反映すべく努力している。	介護計画は3か月毎に見直している。家族の要望に沿って、援助方針で医療連携を進めることや、誤嚥防止、褥瘡予防などの課題を適正に介護計画に反映して支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・業務日誌を通じ、カンファレンス・申し送り時等に情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じた柔軟な支援・サービスが提供できる様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公民館・スーパー、成田山等、個々の支えている地域資源を把握し、豊かな暮らしを楽しむことができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望のかかりつけ医の尊重と、かかりつけ医に対して事業所としての関係を構築していく努力をしている。	家族・職員が同行の定期受診は、日頃の様子をメモで知らせ、変化時には受診表に状況を記入、受診結果等も同表に記入され個別に管理している。入院時には、介護サマリーで適切な医療受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師がいない為、母体のクリニックにて相談しながら、適切な受診・医療が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会や、担当医・看護師との相談を密に行いながら、本人のニーズに合致した治療・退院支援・療養型施設への入所等、支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に御家族に意向確認書を記載して頂き、その時々状況の変化時には再度記載して頂き、本人の状況に応じた意向を共有出来る様に努めている。	年に一度「ご家族意向確認書」で把握している。体調の異・急変時、家族の気持の変化等にも柔軟に対応できるよう、意向と方針の共有に努めている。かかりつけ医とも施設でできること等の相談を重ね、紹介状で入院に繋げる等の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は定期的に受講できていない為、受講する事と施設内にて職員間で共有していく事が今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度1度防災訓練を実施している。3月末に本年度2度目の防災訓練を実施予定である。災害時の対応を全職員が把握・共有していく事が課題である。	7月に消防署立会いで、2階から出火想定避難訓練を行った。2階の車椅子使用者を、職員3人が担いで階段を降りた。夜間と全職員の参加が課題と把握している。近隣には実施日時の挨拶をし、気配りが見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にし、敬意ををもって全職員が対応できる様に教育している所であり、今後の課題である。	人生の先輩であり、生活層を尊重し失礼のないよう努めている。声かけの基本は苗字だが、状況で名前のときもある。排泄介助の際は、トイレの戸を閉め、入浴は同性介助等プライバシーや羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる様に選択できるような質問を投げかける工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時折職員の都合で対応している部分がある為、全職員に対し、意識の見直しを行い柔軟に対応できる様に教育していく事が今後の課題である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に合わせて、訪問美容院に来て頂いたり、御家族の協力の下、馴染みの美容院へ行かれたりして対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的にタイヘイと契約しているが、その時その時の一品・希望をメニューに取り入れる工夫をしている。重度の利用者の対応がある為、職員と共に出来ない部分もある。	個々の嚥下状態に合わせて刻む等の配慮をしている。誕生会等には本人の好む一品を加えて、楽しみな食事になるように工夫している。職員と一緒にテーブル拭きや片づけ、スーパーへ買い物に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量のチェックを個人記録内で行い、一日の摂取量を把握できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に応じて、口腔ケアウエットや口腔ブラシ・歯ブラシにて毎食後口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔や身体状況に応じて、誘導している。自尊心を傷つけない様に対応する様に努めている。	個々の介護記録に水分補給・排泄等を時系列で記し綴じている。下痢状態を医師に伝え、服薬の検討から改善している。排泄間隔を把握し、紙おむつから日中はリハビリパンツに改善する等、自立支援に励んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌の摂取や整腸剤・下剤の内服を個々の状況に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を設けてはいるが、状況に応じて対応できる際には本人の希望を考慮させて頂いている。	基本は週2回入浴・希望のシャワー浴をしている。皮膚の状態を確認、排泄失敗での入浴や毎日の希望にもなるべく応えたいと心掛けている。個々の状況に合わせて、清潔保持支援に柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のペースに沿う形で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表のファイルを作成し、職員が見て確認できる体制を構築している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜や花の水やり等の役割や、笛の演奏発表等、楽しみを共有出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度は、成田山や近隣スーパーへの買い物、道の駅や海岸へのドライブ等、外出支援を行った。	成田山の菊祭り、JA収穫祭、九十九里沼海岸へドライブに行っている。その時の笑顔が広がる写真は、サクラビア通信に載っている。自分の認知症状が常に気になっている利用者も、外出時は表情が明るく笑顔が多くなる。短時間の気分転換にも勤しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の管理は施設にて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向を極力支援できる様に対応しているが、御家族や知人の同意を得ながら慎重に対応しているのが現状である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光は特に見られていない。共用の空間の冷暖房の調整をこまめに行い、快適な温度を保てるように配慮している。	室温と湿度に細心の注意を払い、換気も怠らない。リビングは広く、ソファも十分にあり、思い思いの所に腰を掛けて、テレビを見たり話している。ゆったりした居心地よい雰囲気である。	施設内全体が白く、清潔感がある。広い壁面の空間を活かして、利用者が参加した行事や外出の写真を展示することで、写真を見て楽しむことができるように検討することを望む。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや自室を自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものを自由に持ち込んで頂き、安心できる環境を作っている。	使い慣れた衣装ケースやテレビ、仏壇、位牌、歌舞伎役者等のポスターを貼ったりして寛げる自分の部屋にしている。加湿器を置く等個々の状況に合わせて、季節外の物等は倉庫に保管して部屋は整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内のバリアフリーや手すりの設置にて本人が出来るだけ安全で自由に生活できる様にサポートしている。		